

第 1051 回教育委員会 会議録

平成 30 年 2 月 14 日

14:00~16:10

①開 会

<廣瀬教育長>

それでは、ただいまから、第 1051 回教育委員会を開会いたします。

②会議録署名委員の指名

<廣瀬教育長>

会議録署名委員に涌井委員と武田委員を指名いたします。

③会期の決定

<廣瀬教育長>

会期は、本日一日としていかがですか。

<各 委 員>

異議なし。

<廣瀬教育長>

御異議なしと認め、会期は本日一日に決定いたします。

④報 告

<廣瀬教育長>

議事に先立ち、報告があります。

(1) 「平成29年度「未来に伝える山形の宝」登録及び「未来に伝える山形の宝」ロゴマークの決定について」、文化財・生涯学習課 課長補佐より報告願います。

<文化財・生涯学習課 課長補佐>

平成 29 年度「未来に伝える山形の宝」登録及び「未来に伝える山形の宝」ロゴマークの決定につきまして御報告いたします。

資料のほうは、報告 1-1 の資料を御覧いただきたいと思います。

地域に残る有形・無形の様々な文化財を一つのテーマで結びつけまして、面として保存・活用する取組みを登録する「未来に伝える山形の宝」につきまして、今年度は重点テーマ 1 件、推奨テーマ 3 件の計 4 件が登録され、先週の 2 月 7 日に知事より登録証を交付していただいたところでございます。

重点テーマにつきましては、江戸時代に最上川舟運の船着き場が設置され、物資の集散地・商業地として栄えた地域で、国の重要文化的景観として本県で 2 番目に選定された長井市の町場景観が登録されました。

また、推奨テーマにつきましては、山寺立石寺を支えた天童市の高楯地区、創建 1,200 年と言われる笹野観音堂を中心とした米沢市の笹野地区、東北の熊野信仰を伝える熊野大社を中心とした南陽市の宮内地区がそれぞれ登録されました。各団体の内容詳細等につきましては、報告 1-2 の資料のほうに記載してございますので、後ほど御覧いただければと思います。

次に、報告 1-3 に移らせていただきます。ロゴマークの決定につき

まして報告申し上げます。

今年度、制度創設5年を記念いたしまして、制度のより一層の周知広報を目的にロゴマークの一般公募を実施いたしましたところ、全国から181名、計266作品の応募が寄せられまして、厳正なる審査の結果、千葉県在住の野田悟史さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

今後、今回決定いたしましたロゴマークを県のホームページですとかパンフレット、また各登録団体において実施するイベントの際のチラシ等、幅広く活用させていただき、制度の周知を図っていくこととしております。

報告は以上でございます。

<廣瀬教育長>

ただいまの報告について御質問等ございますでしょうか。

<森岡委員>

登録というのは、県による管理であるとか、予算面での措置が伴うものなのでしょうか。

<文化財・生涯学習課 課長補佐>

登録された団体の取組みに対しまして、県のほうでも推進事業費ということで予算を計上しております、主にソフト面、PR、情報発信ですとかイベント開催経費等々を一部支援するという仕組みになっております。

<廣瀬教育長>

登録された団体は、ロゴマークを自由に使っていいということになっているんですか。

<文化財・生涯学習課 課長補佐>

登録団体には自由に使っていただけます。使い方については、一定の基準をつくり、管理したいと思っております。

<涌井委員>

ロゴマークの最優秀賞になられた方は、デザイン会社とかの会社の方でしょうか。

<文化財・生涯学習課 課長補佐>

今は会社員をされているということで、以前にデザイン関係の仕事をされていたと聞いております。

<涌井委員>

今は全然関係ない。

<文化財・生涯学習課 課長補佐>

今はデザイン関係の会社ではないと聞いております。

<廣瀬教育長>

ほかになれば、次に、(2)「平成29年度山形県公立高校生のボランティア活動実態調査の結果について」、文化財・生涯学習課 生涯学習振興室長より報告願います。

<生涯学習振興室長>

それでは、1ページを御覧いただきたいと思います。

まず、調査の概要ですが、対象者は県内の公立高等学校全日制の3年生全員で6,919名です。その中で回答者は6,699名ということで、回答率は96.8%でございました。8月下旬から9月中旬に各高校に回答していただきまして、県青年の家で集計分析を行いました。

調査結果については、2ページから御説明いたします。

高校生のボランティア活動は2つに分けられます。まず学校の教育活動として行われる学年単位の活動とか、あとは部活動、委員会活動などのボランティア、これが1つでございます。もう1つは、学校以外で行われるYYボランティアサークルや、地域ボランティア活動の2つに分けられます。

2ページの数値は、この2つ、すなわち学校の内外を合わせて高校3年間で1回以上ボランティア活動を行った生徒の割合を示すものです。本年度の調査では78.4%であり、昨年とほぼ同じ値ということでございます。

3ページを御覧いただきたいと思えます。

こちらは、学校以外の活動についての数字です。こちらは32.7%であり、昨年度よりわずかに減少しています。特徴といたしましては、男女での差が10.9ポイントと大きくなっておりまして、学校外における男子の活動を促していく必要があると考えております。

4ページを御覧いただきたいと思えます。

こちらは、学校における活動の数字です。72.7%で、これも昨年度と大体同じ数字でございます。学校側ではボランティア活動として実施していても、生徒がボランティアであると認識していないケースも想定されます。例えば部活動単位で活動しても、それがボランティアではなく部活動というふうに思っている生徒や、学年行事で行ってボランティアを行っても、それはボランティアでなく学年行事だというふうに思ってしまう生徒がおりますので、生徒のボランティアに対する認識、これを深めていく必要があるかと思えます。

なお、下の方には私立高校の3年生に同様の調査を実施した結果があります。今年初めて行ったアンケートでございます。参考として御覧いただきたいと思えます。

では、5ページをお開きください。

下は、実際に活動している分野です。グラフ7では、男女ともにごみ拾いとか清掃などの環境整備の活動が多いということです。また女子は福祉・介護や子育て支援が男子に比べ多い傾向にあります。

最後に7ページ、御覧ください。

表の19、男女別の関心率というところがございますが、こちらの一番下に「関心なし」という項目がございます。こちらが19.5%という結果になりました。やはりこの層の生徒に働きかけるきっかけづくりを学校の内外で進めていく必要があるかと思えます。そのためにも各市町村のボランティアサークル担当者との連携を図るとともに、市町村担当者間の横の連携を一層図っていく必要があると思われまふ。今後は県青年の家を初め各教育事務所で主催しております中学生、高校生、指導

者を対象としたボランティア活動推進事業にかかわる事業の一層の推進を図らなければならないというふうに考えております。

以上で、高校生のボランティア活動の実態調査の報告を終わります。

<廣瀬教育長>

ただいまの報告について御質問等ございますでしょうか。

<片桐委員>

ボランティアというと、すごいことのように思っている子もすごく多いんですね。もっと身近なものでできるんだよというところから情報発信したほうがいいのかなということと、進学校の生徒がなかなか参加してくれない。忙しいということもあるんですが、そこは一つ課題なのかなと思います。

あと、私どもの団体では高校生からボランティアに参加してもらったときに、学校にお礼の文書を出すんですね。こういうことをしてもらってすごくよかったし、これからもぜひ参加して欲しいと。そういうところで、受け入れる側も、もうちょっと工夫が必要なのかなと思っているところです。

<廣瀬教育長>

ほかになれば、次に、(3)「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について」、スポーツ保健課長より報告願います。

<スポーツ保健課長>

それでは、平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について御報告させていただきます。

報告資料の3-1を御覧ください。

調査の目的、対象についてでございますけれども、この調査は子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析し、施策の成果と課題を検証するため、小学校5年生、中学校2年生を対象にスポーツ庁が平成20年度から実施している調査となっております。調査事項につきましては、実技に関する調査と質問紙による調査の2種類の調査がございます。

それでは、結果について御説明させていただきます。報告資料3-2を御覧ください。

本県の実施校、実施人数につきましては記載のとおりでございます。

初めに、「2 体力・運動能力調査結果」を御覧ください。体力合計点につきましては、全国平均との比較では小学校5年生女子と中学校2年生男女が全国平均を上回っております。前年度との比較では、小学校男女、中学校女子が上回っている状況でございます。

中学校2年生の男子は、前年度の県平均を下回っているところがございますけれども、この学年の小学校5年生のとき、平成26年になりますけれども、そのときの全国平均との比較を見ますと0.4ポイント下回っておった学年でございます。それが今回の中学校2年時では全国平均を0.3ポイント上回っておりますので、向上している状況が見られるということでございます。

次、「(2) 種目別結果」についてでございます。20メートルシャトルラン及び持久走、これは持久力をはかる測定項目ですが、本年度も全

での調査対象で全国平均を上回っており、大変良い傾向が続いておるところでございます。

県の課題としておりました 50 メートル走につきましては、中学校男子・女子が全国平均を上回っております。中学校 2 年生男女が小学校 5 年生のときには、どちらも全国平均を下回っておる状況でございましたので、これまでの様々な取組みの成果が確実にあらわれてきているというふうに分析をしているところでございます。しかしながら、小学校男子・女子においては、いまだ全国平均と大きな開きがあります。各学校でのより具体的な手立てが必要と考えているところでございます。

また、長座体前屈、これは柔軟性をはかる項目でございますけれども、小・中男女全てにおいて全国平均を下回っているということでありまして、こちらも今後の課題と思っております。

次に、「3 運動習慣、運動やスポーツに関する意識調査結果」についてでございます。運動部やスポーツクラブへの加入率につきましては、小学校 5 年生男子を除いて全国平均を上回っている状況でございます。

また、体育授業を除いた 1 週間の総運動時間につきましては、中学校の 2 年生女子を除いてそのほかが全国平均よりも短い傾向にあります。

また、運動やスポーツに関する意識では、運動が好き、また体育の授業が楽しいと感じている子どもの割合は、全国と比較しても高い状況にあります。

以上が調査結果の概要でございますけれども、スポーツ保健課といたしましてはこれらの調査結果を踏まえまして、山形大学・県体育協会と連携した子どもの体力向上支援委員会で今回の調査結果を分析し、体力向上に向けた施策の成果と課題を検討していくとともに、教育事務所単位で開催される体力向上対策会議で、各学校において、この分析結果を共有しながら、今後の取組みにつなげてまいりたいと考えているところでございます。

また、今年度新たに取り組みました、やまがたっ子走力アップ推進事業。県内 4 校の小学校をモデルとしまして取り組んだものでございますけれども、各学校の実態に合わせて専門家からプログラムを提供していただきながら取り組んでまいりました。この中で 1 つ明らかになったのは、これまでの改善の取組みで、疾走フォームの改善にポイントを置いた指導をやってきた傾向がございますが、数値の向上を考えたときにはスタートの改善が伴わないと、なかなか疾走フォームの改善が記録の向上に結びつきにくいという課題が明らかになりました。こういうようなところを体力向上対策会議等で共有を図りながら各学校に周知して、取組みにつなげてまいりたいというところでございます。

以上が報告でございます。

<廣瀬教育長>

ただいまの報告について御質問等ございますでしょうか。

<山 川 委 員>

新聞に各県ごとの結果が一覧表で出ていたんですね。それを学力テ

ストの結果と見比べてみると、福井県が全部で1位で、秋田県も10番目ぐらいで高いところであって、山形はほぼ真ん中ぐらいの感じだったかなと思いましたけれども、今まであまり考えたことはなかったんですが、運動能力と学力の関連性・相関性というのはあるのかなのか。何かそういう分析とかいうのはあるんですか。

<スポーツ保健課長> 相関があるのかどうかというところにつきましては、いろいろ研究をされている方もいらっしゃるようではございますけれども、具体的に相関があるというような研究結果というのは、いまだなされていないようです。

<廣瀬教育長> 文部科学省が大学と連携して、運動能力が高い子は成績がいいのか分析しているようなんですが、その結果については示されていない。

<山 川 委 員> 何かありそうだっていう印象があるわけですよ。福井は一体何をやっているのだろうという。運動能力に関して特色のある教育を小学校、中学校でやっているのだろうか。少し何かひっかかる感じで見ましたので、研究の材料にはなるかもしれないなとは思いました。

<涌 井 委 員> 福井は業間体育ってというのが有名なんですよね。スポ少に加入している子もすごく多かったです。ちょっと特色のあることをしていらっしゃるんですよね。

<廣瀬教育長> 福井県には、先生方が視察に行くでしょう。見てきてもらったらいんじゃないですか。秘訣があるんでしょう。

<スポーツ保健課長> スポ少への加入率については、実は山形は全国でも高いほうなんです。業間体育みたいなものも、1学校1取組みというような形でやられている学校が多いんですが、どちらかというところと持続的な、例えば距離を重ねていきながら日本1周しましょうとか、そういう取組みは行っていると聞いているところでございます。

<涌 井 委 員> やまがたっ子走力アップ推進事業についてなんですが、うちの息子の学校に、外部から短距離の先生が来て3、4回指導したんですよね。それはこのプログラムだったんですか。

<スポーツ保健課長> このプログラムです。

<涌 井 委 員> ただ、担任の先生からは、3回、4回ではあまり効果が上がりませんでしたという報告があったんですけれども、体幹が全然しっかりしていないからじゃないかなって思って、しっかりしていない体幹のところでは幾らフォームを教えても、なかなか定まらないんじゃないかなと個人的には考えていました。ただ、3、4回でコンマ何秒縮まるということはきっとないと思うというのが先生のお話でしたが、継続してやっていく

必要があるのかなと親としては感じました。

<武田委員>

息子がスポ少やっているんですけども、理論的な体の動かし方、ただ単にむやみに走ったり反復練習したりとかではなくて、何でこういう動きをするとこうなるのかということを理解させることも、すごく大事なんだなと思って、この間、メジャーリーグのエンゼルスの特レーナーが山形出身の方で、その方が来て教えてくれた練習の仕方が、全然これまでと違うものだったんです。やはり継続すると確実にその効果が出るんじゃないかななんて思って、時間だけじゃなく何か学びながらやるのが大事なのかなと。

<スポーツ保健課長>

授業の中でも楽しみながら、しかも体力が高まっていけるような取り組みが主体的に行われるように授業の改善に努めてまいりたいと思っております。

<廣瀬教育長>

ほかになれば、これより議事に入ります。

⑤議 事

<廣瀬教育長>

議第1号及び議第2号は人事に関する案件であり、また議第3号は議会提案前の案件であることから、これより秘密会としていかがですか。

<各委員>

異議なし。

<廣瀬教育長>

御異議なしと認め、これより秘密会といたします。

《 議第1号から議第3号は秘密会にて審議 》

⑥閉 会

<廣瀬教育長>

これで、第1051回教育委員会を閉会いたします。